

Ⅱ 国語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域1事項を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の概要と分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。

（◇：良好な結果が見られた点 ◆：課題が見られた点 ○：指導のポイント）

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 : 1…国語への関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語についての知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい	評価の観点				
				1	2	3	4	5
読むこと	1	問一	目的に応じて、中心となる文をとらえて文章を読むことができる。				○	
		問二	目的に応じて、段落相互の関係を考えて文章を読むことができる。				○	
		問三	目的や必要に応じて、文章の細かい点に注意して読むことができる。				○	
							○	
		問四	目的や必要に応じて、文章を要約することができる。	○			○	
話すこと・聞くこと	2	問一	話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。	○	○			
		問二	必要な事柄について、要点をメモすることができる。		○			
					○			
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	3	問一	(1)ア (1)イ (2)ア (2)イ 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。	薬 局				○
				薬				○
				音 楽				○
				楽しい				○
		問二	(1)ア (1)イ (2)ア (2)イ 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	はやく(早)				○
				はやい(速)				○
				きる(着)				○
				きる(切)				○
		問三	(1) (2) 文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。	主 語				○
				述 語				○
				主 語				○
				述 語				○
		問四	辞書を利用して調べるために、「言い切り」の形に直すことができる。					○
		問五	(1) (2) 接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。					○
								○
書くこと	4		文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文を書くことができる。	○		○		
	5	ア	目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。	○		○		
		イ		○		○		

2 調査結果の概要と分析

全体	◇全体の正答率は、75.5%であり、昨年度の67.4%と比較して8.1ポイント上回った。その要因としては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、昨年度より、17.2ポイント上回ったためだと考えられる。 ◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、15問中、正答率が85%を超える設問が13問、とりわけ95%を超える設問が8問あった。平均正答率は88.7%であり、過去5年間に於いて最もよい結果であった。 ◆「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の平均正答率については、例年並みの、67.8%、42.9%、67.5%である。 ◆各領域において、条件や目的に応じて要約したり、感想を述べたり、理由や事例を挙げたりして記述する問題に課題がある。								
領域別	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 577 343 824">話すこと・聞くこと</td><td data-bbox="343 577 1412 824"> ◇インタビューの仕方に関する問題である。聞き取ったことをメモにまとめる工夫を二つ選択する設問は、80%前後の正答率であり、おおむね満足であった。 ◆インタビューの内容をよりよくする設問は、正答率が44.3%であり、60%の設定通過率を大きく下回った。 ○音声言語の学習時には、録画や録音をしたり文字化したりして、よりよい話し方や聞き方を学習する活動を行うとよい。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="231 824 343 1160">書くこと</td><td data-bbox="343 824 1412 1160"> ◆目的や条件に応じて書く問題である。大問4の条件は、与えられた二文を構文に合わせて一文にすることで、50.6%という正答率であった。二文を一文にする時に内容は理解していても、構文に合わせて書くことに課題があった。 ◆大問5の条件は、構文に合わせて書くことの他に、アについてはデータをもとに理由を明確にすること、イについては自分の考えを述べることである。ここでも、内容についてはおおむねよいが、構文に合わせて書くことに課題があった。 ○場に応じて提示した構文に合わせて書いたり、例示された文末表現の中から自分が伝えたいことに合うように書いたりする機会を設けるとよい。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="231 1160 343 1328">読むこと</td><td data-bbox="343 1160 1412 1328"> ◆説明文を要約することに課題がある。指定された言葉（気温）を使って、50字以上60字以内で要約する設問であるが、正答率が52.8%であった。 ○字数を決めたり、言葉を指定したり、範囲を指定したりするなど、多様な要約の仕方を学習する場を繰り返し設定する必要がある。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="231 1328 343 1765">伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</td><td data-bbox="343 1328 1412 1765"> ◇配当漢字の読み書きについては、おおむね身に付いていると言える。問一の漢字の読みについては同一漢字の音読みと訓読みを出題したが、日常的に目にする漢字であることもあり、95.2%～98.6%の正答率であった。また、問二の漢字の書きについては、同訓異字を出題したが、85.3%～95.3%の正答率である。 ◆問五の主述の照応に関する設問については、平成20、23年度と同一問題である。主語の認識に課題があり、特に文が複雑になった場合に誤解答の傾向が顕著になることは、依然として変わらない。ただし、3回を比較すると、正答率が57% (H20)、56.6% (H23)、62.8% (H24) となっているため、過去2回より正答率が約6ポイント上昇した。 ○日常の指導の中でゲーム的な要素などを効果的に取り入れて、反復学習を工夫するとよい。 </td></tr> </table>	話すこと・聞くこと	◇インタビューの仕方に関する問題である。聞き取ったことをメモにまとめる工夫を二つ選択する設問は、80%前後の正答率であり、おおむね満足であった。 ◆インタビューの内容をよりよくする設問は、正答率が44.3%であり、60%の設定通過率を大きく下回った。 ○音声言語の学習時には、録画や録音をしたり文字化したりして、よりよい話し方や聞き方を学習する活動を行うとよい。	書くこと	◆目的や条件に応じて書く問題である。大問4の条件は、与えられた二文を構文に合わせて一文にすることで、50.6%という正答率であった。二文を一文にする時に内容は理解していても、構文に合わせて書くことに課題があった。 ◆大問5の条件は、構文に合わせて書くことの他に、アについてはデータをもとに理由を明確にすること、イについては自分の考えを述べることである。ここでも、内容についてはおおむねよいが、構文に合わせて書くことに課題があった。 ○場に応じて提示した構文に合わせて書いたり、例示された文末表現の中から自分が伝えたいことに合うように書いたりする機会を設けるとよい。	読むこと	◆説明文を要約することに課題がある。指定された言葉（気温）を使って、50字以上60字以内で要約する設問であるが、正答率が52.8%であった。 ○字数を決めたり、言葉を指定したり、範囲を指定したりするなど、多様な要約の仕方を学習する場を繰り返し設定する必要がある。	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇配当漢字の読み書きについては、おおむね身に付いていると言える。問一の漢字の読みについては同一漢字の音読みと訓読みを出題したが、日常的に目にする漢字であることもあり、95.2%～98.6%の正答率であった。また、問二の漢字の書きについては、同訓異字を出題したが、85.3%～95.3%の正答率である。 ◆問五の主述の照応に関する設問については、平成20、23年度と同一問題である。主語の認識に課題があり、特に文が複雑になった場合に誤解答の傾向が顕著になることは、依然として変わらない。ただし、3回を比較すると、正答率が57% (H20)、56.6% (H23)、62.8% (H24) となっているため、過去2回より正答率が約6ポイント上昇した。 ○日常の指導の中でゲーム的な要素などを効果的に取り入れて、反復学習を工夫するとよい。
話すこと・聞くこと	◇インタビューの仕方に関する問題である。聞き取ったことをメモにまとめる工夫を二つ選択する設問は、80%前後の正答率であり、おおむね満足であった。 ◆インタビューの内容をよりよくする設問は、正答率が44.3%であり、60%の設定通過率を大きく下回った。 ○音声言語の学習時には、録画や録音をしたり文字化したりして、よりよい話し方や聞き方を学習する活動を行うとよい。								
書くこと	◆目的や条件に応じて書く問題である。大問4の条件は、与えられた二文を構文に合わせて一文にすることで、50.6%という正答率であった。二文を一文にする時に内容は理解していても、構文に合わせて書くことに課題があった。 ◆大問5の条件は、構文に合わせて書くことの他に、アについてはデータをもとに理由を明確にすること、イについては自分の考えを述べることである。ここでも、内容についてはおおむねよいが、構文に合わせて書くことに課題があった。 ○場に応じて提示した構文に合わせて書いたり、例示された文末表現の中から自分が伝えたいことに合うように書いたりする機会を設けるとよい。								
読むこと	◆説明文を要約することに課題がある。指定された言葉（気温）を使って、50字以上60字以内で要約する設問であるが、正答率が52.8%であった。 ○字数を決めたり、言葉を指定したり、範囲を指定したりするなど、多様な要約の仕方を学習する場を繰り返し設定する必要がある。								
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇配当漢字の読み書きについては、おおむね身に付いていると言える。問一の漢字の読みについては同一漢字の音読みと訓読みを出題したが、日常的に目にする漢字であることもあり、95.2%～98.6%の正答率であった。また、問二の漢字の書きについては、同訓異字を出題したが、85.3%～95.3%の正答率である。 ◆問五の主述の照応に関する設問については、平成20、23年度と同一問題である。主語の認識に課題があり、特に文が複雑になった場合に誤解答の傾向が顕著になることは、依然として変わらない。ただし、3回を比較すると、正答率が57% (H20)、56.6% (H23)、62.8% (H24) となっているため、過去2回より正答率が約6ポイント上昇した。 ○日常の指導の中でゲーム的な要素などを効果的に取り入れて、反復学習を工夫するとよい。								
見られる課題	◆目的や条件に応じて書くことに課題がある。平成24年度の具体的な内容は以下のとおりである。 ・「読むこと」 1問四（指定された言葉を使って要約する設問） ・「話すこと・聞くこと」 2問一（よりよいインタビューの内容にする設問） ・「書くこと」 4・5ア・イ（与えられた構文を使って、二文を一文にしたり、分かったことや考えたことをまとめたりする設問） ◆文の構造を理解すること（主述の照応）に課題がある。								

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 読むこと

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	問一	山田さんは、本の目次を見てからこの部分の文章を読みました。目次に書いてあったこの文章の見出しとして、もっともふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号を書きましよう。 ア 「木は生きものです」 イ 「森林は人間が育てました」 ウ 「森林は気温を調節します」 エ 「森林は風をふせいでくれました」	ウ	ア		65.6	1.1	70
	問二	山田さんは、何のためにこのような問いかけの文があるのか友だちと考えました。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号を書きましよう。 ア 書き手は理由がわからないので、ふしぎに思ったことをそのまま書いている。 イ 書き手は理由がわからないので、読み手に調べてほしいことを書いている。 ウ 書き手は理由を知っているが、読み手のきょうみをひきつけるために書いている。 エ 書き手は理由を知っているが、読み手にクイズを出して楽しむために書いている。	ウ	アイエ		83.6	1.3	70
	問三	山田さんは、森林のはたらきを整理するために、「森林がある」場合と「森林がない」場合を左上のような表にまとめました。表の中の（１）（２）に当てはまる文はどれですか。もっともふさわしいものを次のア～エから一つずつ選び、記号で書きましよう。 ア 夏にはからだがあせをかき、自分の体温を守ろうとする。 イ 東京では、真夏の日中の道路の気温が六十度にも跳ね上がっている。 ウ コンクリートばかりのところで火を使い、ガソリンをたいて車を走らせている。 エ 昼と夜のきょくたんな温度の差をやわらげる。	エ	ア		75.1	1.4	70
		森林がある ・夏すずしく、冬はあたたかである。 ・農地を寒さから守り、霜の被害もふせぐ。 ・真夏の日中でも、気温は三十度そこそこである。 ・（１）	イ	ウ		60.6	1.6	65
		森林がない ・さばくでは、昼は真夏のようにあつく、夜は真冬のように寒くなる。 ・（２）						
	問四	B 部の「それほどのちがいは」とは、どれほどのちがいでしょうか。「気温」という言葉を必ず使って、⑦と⑧の段落を五十字以上六十字以内にまとめて書きましよう。 【正答】東京の真夏の日中、道路の気温は六十度にもはねあがる。しかし、皇居や森林のある公園では、気温は三十度そこそこである。 【誤答例】緑も土も地下水もなくなり、火を使っている車を走らせているから。けれども森林のある公園は気温三十度のちがいはない。				52.8	7.1	60

(単位：％)

読むこと

問題 大問1 問一 前頁参照

分析 【問一】は、目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読み、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えて全体の構成を把握したりして読むことができるかどうかを見る問題である。正答率は65.6%であった。誤答例は、アの「木は生きものです」が多い。これは、大問1に「森は生きている」という本の題名がでてきていることや⑤段落に、「森林が生きものだからです。」という気温を調節する理由となる文が書かれており、それらが影響したと考えられる。段落相互の関係から中心となる語や文を捉えて、内容の大体を読み取る力の不足が感じられる。

指導のポイント

日常において、選書する際に題名に着目することが多々ある。特に調べ学習では、本の題名や目次の項目を手がかりに本や文章を選ぶ。また、物語を読むときも題名に惹かれて手にとることもある。これらのことから、題名を丁寧に扱う学習が大事である。

1 物語文や説明文の題名について考える活動

題名は、右の表のように、読み手の興味を引くように付けたもの、本文を短く要約したもの、筆者の意見や考えを端的に表現したものなど、その付け方は様々である。題名の理由を考えたり、題名が表すものを説明したりすることで、本文を概観して捉える力が付く。「自分で題名を書き換えるとしたら…」という活動も全体の構成を把握し内容の大体を把握して読む力を養うことになる。

物語文	主な出来事	主な人物や事物
	・海をかつとばせ ・三つのお願い	・くじらぐも ・ごんぎつね

説明文	筆者の考え	説明する対象
	・たんぽぽのちえ ・動いて考えて また動く	・じどう車くらべ ・イルカのねむり方

2 文章を書いてから題名を見直す活動

おわり	中	はじめ	おもしろいぞ お父さん 由曜田のこと
また、お父さんと公園に行つて、今度は、ぼくがお父さんを笑わせたんです。	最後にキャッチボールをしました。わざと、転んだり、失敗したりしてぼくを笑わせてくれました。…	最初に鉄棒をしました。苦手な逆上がりをお父さんに教えてもらいながら練習しました。お父さんは、わざと変な逆上がりをしていて、思わず笑ってしまいました。	

題名は、最初に書いたり、完成してから考えて書いたりすることもあるが、題名を意識する指導を行うとよい。

題名を付けてそのままにしてしまわずに、書き終わったら、「自分が伝えたかったことと題名がピッタリしているか、書いた文章と題名を比べて、よく考えてみましょう。」と投げかけ、題名を見直して書き直す機会を設けるなど、「書くこと」においても題名に着目させるようにする。

「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を！

「読む」活動で習得した文章を要約したり概観したりする力を、「書く」活動で活用するとよい。自分の文章を要約したり概観したりして、題名を見直すことで、読む力はさらに高まる。それぞれの領域で身に付けた能力を相互に活用し合うようにしたい。



僕は、「お父さんはおもしろいんだよ」っていうことを書いているのだから、・・・、「日曜日のこと」だと、お父さんはおもしろいってこととつながらないなあ。

分析 【問三】は、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、細かい点に注意したりして内容を整理し、読むことができるかどうかを見る問題である。正答率は（１）が75.1％、（２）が60.6％であった。（２）は、（１）に比べ正答率が14.5ポイント下がっている。これは、「森林がない場合の事実」を選ぶべきところを、「気温が六十度にもなるわけ」を選ぶ児童が多かったためである。このことから、目的に応じて内容を整理する力の不足が感じられる。

指導のポイント

○目的に応じて内容を整理する学習

説明的文章の内容を整理する学習において、内容を目的に応じて整理する方法を指導する必要がある。「段落ごとに小見出しを付けて段落相互の関係を把握する」、「キーワードをカードに書き出して、観点ごとに分類する」、「文章の内容を絵や図にして見やすくする」など、様々な目的で文章を整理する学習をするとよい。これらの学習を効果的に行うことは、必要な情報を取り出して読む力を高めることになる。以下に、例を示す。

① 段落ごとに小見出しを付け、表にまとめる。

例) 森林の特ちょうがわかるようにまとめる。

おわり	中2	中1	はじめ	段落	小見出し	役わり			
8	7	6	5	4	3	2	1		
森林の中と外でのちがひ	東京では、真夏の道路は六十度	人間が体温を調節するのと同じ	森林が気温を調節するのは、生き…	昼と夜のきよくたんな差を…	農地を寒さから守っている。	木立をとおひぬけてくる風は気持ちいい。	森林はあつさ寒さをやわらげる。		
事実、意見	事実、意見	事実、説明	事実、説明	事実、説明	事実、意見	事実、意見	事実		

② 内容をカードにして並べ、観点ごとに分類する。

例) 夏と冬の森林のはたらきをまとめ、特徴を明確にする。

冬	夏
霜の被害を防ぐ	気温は三十度そこそこ
農地を守る	気持ちいい風
あたたかい	すずしい

③ 書かれている内容の関係を絵や図にする。

例) 森林は生きものであることを図にする。

文章の構成や段落相互の関係が整理できるな。

「夏」と「冬」のちがいが、はっきりわかるなあ。

「カード」に書くには、短い言葉で抜き出すとよいです！！

図にすると、文章の内容がよくわかるし、説明するときにも使えるなあ。

分析 【問四】は、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、目的や必要に応じて文章を要約することができるかを見る問題である。正答率は、52.8%であった。誤答としては、「気温」という語が入っていないものや、字数が条件を満たしていないものがあつた。また、60度や30度などの数字を使って具体的に説明していないものも多く見られた。これらのことから、目的や必要に応じて要約したり引用したりする力の不足が感じられる。

指導のポイント

○ 目的や条件に応じて要約する

要約には、文章全体を短くまとめる場合や、部分的に詳しくまとめる場合など、目的によってまとめ方に違いがある。いずれにしても、要約するときには「大事な言葉」に注目するとよいが、「大事な言葉」とは、要約するときの目的や条件、児童の思いによって変わる。そのため、条件や目的をしっかりと踏まえて要約することが大切である。

以下に、要約を取り入れた紹介文を書く単元構想を提示する。

第一次

- いろいろな科学読み物の読み、「○○のひみつ図鑑を作ろう」という学習課題を設定する。

第二次

- 教科書教材「ウナギのなぞを追って」を読み、興味深く感じたことに沿って文章を詳しく読み、大事な言葉や文を書き出す。
- 目的や条件に沿って、教材文を要約する。
- 要約した文章を互いに読み合い、要約が一人ひとり違うことに着目する。

第三次

- いろいろな科学読み物を読んで自分が知らせたいことを一つ選び、その内容を要約して紹介文を書く。
- 完成した図鑑について交流する。



二人の目的が違うから、大事な言葉も、要約も変わるんだなあ。

ウナギの研究の苦勞
について紹介するために、**年月を強調して**要約してみよう。



ウナギの赤ちゃんが旅することを要約すると、大事な言葉は…レプトセファルスかな。



ウナギの研究の苦勞 目的「ウナギの研究の苦勞を伝えること」 大事な言葉など ・ 一九三〇年ごろ始まる ・ 七十年以上の年月 ・ 知りたいことはふえるばかり 小見出し 研究に長い年月がかかる		ウナギの赤ちゃんが旅 目的「ウナギの旅を紹介すること」 大事な言葉など ・ マリアナの海 ・ レプトセファルス ・ 日本から真南に二千里 小見出し 卵を産む場所、みんな同じ	
--	--	--	--

『ウナギの研究って、大変』

みなさんは夏休みの自由研究にどれくらいの日数をかけましたか。わたしは、二週間もかかって大変だと思っていました。しかし、ウナギのなぞを研究している人たちは、なんと、七十年以上もなぞを追いつけているそうです。

ウナギの研究は、一九三〇年頃に始まります。最初は、ウナギが生まれる場所を探すのが目的でした。生まれる場所を見つけるのに、七〇年以上かかりました。しかし、なぞは…

要約

『ウナギの赤ちゃんの旅』

ウナギは、スタミナをつける食材として親しまれていますが、ウナギがどこで生まれるか知っていますか。「ウナギのなぞを追って」を読むと、ウナギが遠い海を旅して日本にやってくるのが分かります。

ウナギの赤ちゃんは、レプトセファルスといひます。このレプトセファルスが生まれる場所は、日本から真南に…

要約

(2) 話すこと・聞くこと

大問	問 題	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率	
2	放送委員の中田さんたちは、新しく来られた先生方をしょうかいするために、インタビューをすることにしました。次は、中田さんが高山先生にインタビューをした記録の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。					
	【インタビューをした記録の一部】 ～（インタビューが始まる）～ 中田さん 先生の得意なスポーツは何ですか。 高山先生 野球です。小学校四年生から始めて、高校三年生のときには全国大会に出場できて、甲子園に行ったのですよ。毎日の練習はとてもきびしかったけど、あのときの感動は今でもわすれられない、とてもいい思い出になっています。 中田さん 次の質問です。先生は、どんなときにスポーツの楽しさを感じますか。 ア 高山先生 体を動かして、あせをいっぱいかいて、すがすがしい気持ちになるときかな。 ～（インタビューが続く）～					
	問一 放送委員の人たちは、中田さんの質問の内容がよかったかどうかをふり返って話し合いました。すると、ア部について、次の三つの意見が出ました。		問一			
	○いきなり次の質問へうつるのは早すぎる。感想をつけ加えると、話が深められる。 ○次の質問にうつる前にあいづちをうつとよい。 ○感想を言うときには、高山先生の話した言葉をくり返して使うほうがわかりやすい。	44.3	8.8	60		
		問二 イ				
		78.3	3.1	70		
		問二 オ				
		80.9	3.1	65		
	この三つの意見をもとにして、ア部の前につけ加えた方がよい言い方を考え、二十字～四十字で書きましょう。	高山先生について ○得意なスポーツについて ・野球 ・野球は小4から始めた ・こうし園に出場 ・きびしい練習を乗りこえた ○スポーツの楽しさ ・体を動かしてあせをかく ・すがすがしい				
	問二 次にしめすのは、中田さんが高山先生にインタビューしたときのメモの一部です。中田さんは、分かりやすいメモにするためのくふうをしました。そのくふうを説明したものとして、ふさわしいものを次のア～オから二つ選び、記号で書きましょう。					
ア 聞き取ったことの中から、スポーツに対する思いを中心に書いている。 イ 聞き取ったことをできるだけ短い言葉や文で書いている。 ウ 聞き取ったことと下調べしたことを合わせて書いている。 エ 聞き取ったことに対する意見や感想を書いている。 オ 聞き取ったことが分かるように見出しをつけて書いている。						
【正答・採点基準】 問一 そうですか。 こうし園に行けたなんて、すてきな思い出ですね。 （あいづち） （言葉を繰り返す） （感想） ※一つ以上の意見を受けて文字数を満たしている場合は正答とし、1点配点。（例えば、あいづちはなくとも、繰り返しと感想がある場合は正答とする。） ※インタビューの内容を受けた感想になっていない場合は誤答。 ※インタビューのため、文末を常態にするのはそぐわないため誤答とする。						
問二 イ・オ（順不同可）						

(単位：％)

問題 大問2 問1 前頁参照

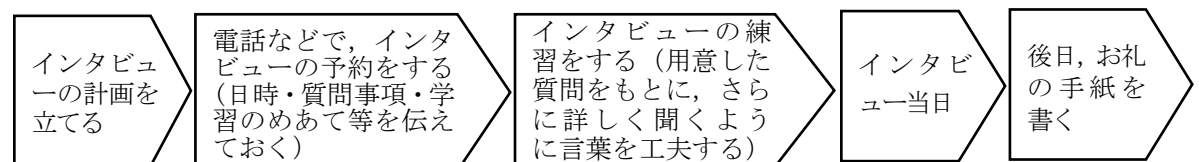
分析 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができるかを見る問題である。正答率は44.3%と低く、無解答率も8.8%と「話すこと・聞くこと」の設問の中で一番高い。誤答例で多いのは、設問の意図が捉えられていないものや、「ぼくも野球が好きなので、先生のように続けていきたいと思います。」のように、インタビューの内容を受けた感想になっていないものであった。

低学年の「話すこと・聞くこと」の指導事項「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。」を受けて、中学年では、「話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。」が挙げられている。話している事柄の順序など、話の組立て方を意識しながら話の要点をとらえたり、聞いたことを基に、分からない点や確かめたい点を質問したり感想や意見を述べたりする力を付けることが求められている。自分の経験や考えと比較しながら聞くことや、話を深めるためにどのような質問をすればよいかなどが、十分身に付いていないことがうかがえる。

指導のポイント

1 音声言語を文字化して分析する

音声言語の指導が難しい理由の一つに、発した言葉がその場で消えていってしまう特性が挙げられる。教科書教材で、言語活動の一部分が台本で提示されているように、話し言葉を文字化して、どのような語彙等を使うとよいのかを分析するモデル学習が重要である。インタビューの学習では、事前準備や当日の手順だけでなく、相手を目の前にした言葉のやりとりの練習にも、時間を取ることが大切である。この設問のように、「感想を加える、あいづちを打つ、先生の言葉を繰り返す」などと提示されている条件の言葉遣いを押さえた後、友達や教師を相手に実践する時間を設けるとよい。



インタビューの計画表

- ◆ 取材する相手
- ◆ 取材する日時
- ◆ 取材する場所
- ◆ 相手への連絡先
- ◆ 質問したいこと
- ①
- ②

こんにちは。ぼくは、〇〇小学校〇年の〇〇と言います。今、国語で〇〇について学習しています。そこで、そちらにうかがって、〇〇についてお聞きしたいのですが、いつならうかがってもよろしいでしょうか。

(中略) おいそがしいところ、ありがとうございました。さようなら。

詳しく聞く例

- ・どのようにして～するのですか。
- ・そう考えたのはなぜですか。
- ・～すると、どんな気持ちになりますか。
- ・～について詳しく教えてください。

インタビューの進め方

- 1 あいさつ、自己紹介
- 2 インタビューをお願いした理由
- 3 聞きたいことをインタビュー
- 4 お礼の言葉

あいづちの例

なるほど。
そうですか。

相手の話を繰り返して感想を出す例

- ・～なんて、すごいですね。
- ・～ということが、うらやましいです。
- ・ぼくも、先生のように～と思います。

2 よりよい表現にするために推敲する学習

「書くこと」の学習過程では推敲が位置付けられているが、同じように「話すこと・聞くこと」においても、話し合いやインタビューの練習をする際、友達同士で相互評価し、アドバイスを生かしてもう一度やり直してみる時間を確保することが大切である。視聴覚機器を活用して活動の様子を録画や録音しておくと、さらに効果的である。どのような言葉を使うとよいのか、モデルを確認しながら、自己評価や相互評価をさせていくとよい。

(3) 伝統的な言語文化と国語との特質に関する事項

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の 無解答 率	設定 通過率
3	問一	(1) 薬局でかぜの薬を買った。 ア イ (漢字の読み)	ア やつきよく	顕著な誤答は見受けられない。		95.8	1.9	75
			イ くすり			95.2	1.9	85
		(2) 音楽は楽しい。 ア イ (漢字の読み)	ア おんがく			96.1	1.6	90
			イ たの			98.6	0.9	95
	問二	(1) ア 朝はやく登校しよう。 イ ぼくの友だちは、足が はやい。(漢字の書き)	ア 早く			95.3	2.5	90
			イ 速い			86.7	4.0	80
		(2) ア 寒いので上着をきる。 イ 野菜をきる。(漢字の書き)	ア 着る			85.3	4.1	75
			イ 切る			92.9	3.7	80
	問三	(1) ぼくは、きのう、山下君と ア イ ウ 公園で 遊びました。 エ オ	主語 ア	ウ		88.1	2.8	90
			述語 オ	イ		85.7	2.9	90
		(2) わたしの 妹は、とても ア イ ウ かわいい。 エ	主語 イ	ア		62.8	2.8	55
			述語 エ	イ		85.0	3.1	80
	問四	——部の言葉を国語辞典で調べるとき、なんという言葉で調べればよいでしょうか。 悲しかったけれど、なくのをやっところえました。 ア こらえた イ こらえる ウ こらえます エ こらえました				66.7	2.4	75
	問五	(1) つなぎ言葉の使い方としてふさわしいのは、アとイのどちらですか。 今日は、部屋の中で遊んだ。_____, 外は雨だからだ。 ア なぜなら イ それでも	ア なぜなら	イ		98.3	1.0	90
		(2) オムレツを食べますか。_____, カレーにしますか。 ア けれども イ それとも	イ それとも	ア		98.4	1.0	90

(単位：%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題 大問3 問三(2) 前頁参頁

分析 文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができるかを見る問題である。昨年度出題された同一問題と比較すると、(2)の正答率は昨年度の56.6%から、今年度62.8%に上がり、無解答率も6.1%だったのが2.8%と低くなった。以前に比べ、主語と述語の理解度は高まってきていると言える。一方で、主語を指摘する際、「わたしの」を選ぶ誤答例が多く、人名や文頭にある「ぼくの・わたしの」等が主語であると誤解している児童が依然多いことがうかがえる。

問題 大問3 問四 前頁参照

分析 辞書を利用して調べるために、「言い切り」の形に直すことができるかを見る問題である。正答率は66.7%、無解答率は2.4%であった。アの「こらえた」を選ぶ誤答例が多く、文末を常体に直すことはできているが、辞書に出ている言い切りの形は現在形であることの理解が不十分であると言える。

指導のポイント

1 「読むこと」「書くこと」の学習と関連させた主語・述語・修飾語の指導

主語と述語の関係については低学年で、修飾語については中学年で学習するが、「書くこと」や「読むこと」の学習の中で、学んだ知識を振り返る場面を繰り返し設けるとよい。

短文づくりの学習で…

教科書の「漢字の広場」や、新出漢字を使った短文づくりの際、主語と述語、修飾語を入れることを条件にする。

「読むこと」の学習で…

主語を補いながら読む。誰の言動が正しく読み取ることができる。
例：石けりをしながら、女の子は橋を渡りました。(女の子は、)キャベツ畑の細い道を通りました。(女の子は、)村でたった一けんの、たばこ屋の前を通りました。
出典：4年下「初雪のふる日」

「書くこと」の学習で…

主述の整った文章とそうでない文章を比較したり、主語が毎回出てくる文章とあえて省略した文章を比較したりすると、表現の効果に気付く。

<毎回主語を入れた例>

ワタルは、すなはまにかけ下りた。ワタルは、じゅうなんたいそうをしながら、波打ちぎわまですんでいった。ワタルは、海に向かってバットをかまえた。(中略)ワタルは、波が一番高くもり上がったしゅんかんをねらって、力いっぱいバットをふった。ワタルは、一回、二回と数えながら、気合いをこめてバットをふった。

出典：3年上「海をかつとばせ」

2 辞書を使いこなす環境づくり

国語辞典や漢字辞典の使い方の知識を得た後、繰り返し活用する環境づくりが大切である。教室で、自分の辞書を机近くに常備しておき、国語科に限らず他教科でも分からない語彙が出てきた際には積極的に調べる習慣を付けたい。また、調べた言葉のページに付箋を貼ったり、国語辞典を楽しく活用したりすることも効果的である。

クイズづくり

例：「こわかったり、おどろいたりして体が動けなくなること。」の意味に合う言葉はどれでしょう？
① 足がぼうになる ③ 足を運ぶ
② 足がすくむ ④ 足を洗う

言葉集め

例：「手」に関係する慣用句を集めよう。
① 手につかない
② 手も足も出ない
③ 手を広げる
例：国語辞典に載っている、「一」のつく熟語を集めよう。

早引き競争

黒板に書かれた言葉の意味を、1分間でいくつ調べられるかな？

(4) 書くこと

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の無 解答率	設定 通過率
	4	児童会の代表委員の石橋さんたちは、運動会について伝えたいことを、さく年の反省をもとに【メモ】に取ったあと、児童会だよりに書きました。 【児童会だよりの一部】の②アの中に入るふさわしい内容を、①の書き方と同じように書きましょう。	開会式の集合時こくにおくれないように	・開会式の集合時こくにおくれる人がいたので ・開会式の集合時こくに間に合うように ・もたもたせずに		50.6	5.5	60
5	ア	図書委員の高橋さんは、読書についての報告書を書くために、クラスのみんなにアンケートを取りました。その結果を見ながら文章の組み立てを考え、組み立てメモにまとめました。【組み立てメモの一部】のア	例 ①・②から、読書をしていない、または、一日十分以下という読書量の少ない人が、三人もいること。	・読書時間の少ない人が七人もいること。 ・読書をしていない人が二人もいたので、もっと読んでもらいたいこと。		34.2	11.1	55
	イ	イの部分について、あなたならどのように書きますか。それぞれ、直前にある①の書き方に合うように書きましょう。	例 たくさん本を読んでいる友だちに、おすすめの本をしょうかいしてもらおうとよい。	・たくさん本を読んでいる友だちに、おすすめの本をしょうかいしてもらおう。 ・できるだけもっと本を読むようにするとよい。		44.0	15.0	60

(単位：%)

問題 大問 4 前頁参照

分析 ④は、平成 22 年度の全国学力・学習状況調査の国語 A で出題されたものと同一問題である。その時の正答率は 60.6%であり、今回の正答率は 50.6%であった。同一の問題を 1 学年下の段階で解いていることを考えれば、妥当な結果であると考えられる。文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文を書く問題である。ここでは、文の論理を考えながら指示された文の構成に合わせて、二文を一文にして書くことが求められる。

解答するには、モデル文から、「～しないように、～すること。」の構文に合わせて書くことが条件となる。誤答を見ると、二文を一文にすることは比較的できていたが、もう一つの課題である構文に合わせて書くことができなかったことがわかる。

指導のポイント

1 文の論理を考え、構成を整えて書く指導

伝えたい内容を的確に伝えるために、文の論理を考え、構成を整えて書くことが重要である。このようなことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習においても意図的に指導することが大切である。

指導例としては、以下のようなことが考えられる。

○一文が長くなることで、意味が分かりにくくなる例文を示し、複文や重文を接続語を使って二文に書き分けたりする。

○原因となる一文と結果を表す一文とを合わせたり、複数の箇条書きされた内容を一文にまとめたりする。

2 条件に基づいて適切に書く指導

指示された字数や文の数、文末表現などの条件に基づいて、必要のある事柄を取捨選択して適切に書くことが重要である。そのためには、目的や意図を明確にした上で、多様な条件を提示し、それらに合わせて適切に書くことができるように指導することが大切である。

指導例としては、以下のようなことが考えられる。

○字数や文の数、段落の数等を指定して、記述をする。

○箇条書きにされたメモから、様式を意識して文章に起こす。

○話し言葉を書き言葉に、友達から聞いたことを目上の人に伝えるように、文章を書き直す。

次の例文を読んで、後の問いに答えましょう。

【例文】

私は、カレーライスが大好きだけれど、自分で調理したことはなかった。

① いくつかの内容からできているでしょうか。

・ 二つ

② 二つの文に分けましょう。

・ 私は、カレーライスが大好きである。

・ 私は、カレーライスを調理したことはなかった。

③ 接続語を使って、二つの文をつなぎましょう。

・ 私は、カレーライスが大好きだけれど、自分で調理したことはなかった。

④ 「私とカレーライス」について分かることを、十文字以内で二つ書きましょう。

・ 大好き

・ 調理はしたことがない

【組み立てメモの一部】

調べた結果 ※ぼうグラフにしてのせる。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ①読書をしていない人が二人。 | ④二十一分以上三十分以下が十人でいちばん多い。 |
| ②一分以上十分以下が一人。 | ⑤五十一分以上六十分以下が四人。 |
| ③十一分以上二十分以下が四人。 | ⑥六十一分以上が三人。 |

課題から考えたこと クラスのよい点と問題点が見えてきた。

- ①よい点・・・⑤・⑥から、一日に五十一分以上という読書量の多い人が七人もいること。
 ②問題点・・・ア

今後の取り組み 高学年になった今こそ、読書量を増やしたほうがよいと思うので、その方法を考えたい。

- ①方法その一・・・特に読みたい本がない人は、司書さんに相談して本をさがすとよい。
 ②方法その二・・・イ

分析 ⑤のアは、調べたことを報告する文章を書くために、調査の結果とそこから考えたことを明確に書くことができるかを見る問題である。正答率は34.2%と、出題問題の中で最も低い正答率であった。解答するためには、3つの条件（①調べた結果の6つの情報から考える。②クラスの問題点について述べる。③「～（番号）から、・・・こと。」の書き方に合わせる）を整える必要がある。誤答を見ると、この中で③の条件を満たせなかった解答が多く、特に「～から、」の部分の書き落としが目立った。調査報告文を書く過程で自分の考えを書く際には、その考えの根拠を示す必要性への意識がまだ高くないことがうかがえる。

イは、調査報告文の構成の特徴の一つである、「調査結果から自分で考えたこと」を書くことができるかを見る問題である。読書量を増やすための方法を、直前にある文をモデル文に合わせて書くものであり、正答は、「～とよい。」という文末で記述するものであった。正答率は、44.0%と低かった。誤答を見ると、文末が「～とよい。」となっていないものが多かった。

指導のポイント

文章の様式に合わせて、構成、記述(使用する語句、文末表現等を含む)を指導することが大事である。

1 調査報告文の書き方を整理して確認する。

例)

○事実と考えを分けて書く。

○接続語や文末表現に注意する。

【自分の考えを述べるための文末表現】

- ・分かったこと 「～分かった。」
- ・問いかけ 「～だろうか。」
- ・呼びかけ 「～しよう。」
- ・推測 「～ではないかと思う。」
- ・決心 「～するつもりだ。」

【事実を述べるための文末表現】

- ・「～です。」 ・「～なる。」
- ・「～である。」 ・「～している。」
- ・「～した。」

○調べた結果のまとめ方を工夫する。

【調べた結果のまとめ方】

集計データを数値化することで分かりやすくなる。それをさらに、図表、グラフ、写真等の資料を用いて、自分の考えられることを整理しやすくする。
 ※グラフには、円、帯、棒、折れ線等あるが、適切なものを選択する必要がある。

○見出しを立て、文を簡潔に書く。

【見出し】

- ・書きたいことを要約する。

2 取材の結果と考えたこと(考察)との違いを理解して書く。

○結果・・・ データ、数値等の事実のみを示す。

○考えたこと・・・ 結果の特徴や類似点、相違点を比較したり、他の情報を取り入れたりして、
(考察) 自分の考えを表す。 ※「結果」と同じ数でまとめる必要はない。

ワークシート例 ①

●結果や資料を見て、自分の考えたことを書きましょう。

調査結果から考えたこと

書き方
結果の「から」・・・(文末)。

結果をまとめた資料

結果①
結果②
結果③
結果④
結果⑤

結果と結果から考えたことを区別しよう。

結果を述べる文末
(常態・敬体は統一して書く)
「～です。」・「～なる。」
「～である。」・「～した。」
「～している。」

考えを述べる文末
・分かったこと「～分かった。」
・問いかけ「～だろうか。」
・推測「～ではないかと思う。」
・決心「～するつもりだ。」

3 取材したことの整理と文章の組み立てメモを作成する

＜調査報告文の構成＞

- ①調査すること ②調査の目的 ③調査の内容・方法 ④調査の結果
⑤まとめ(考えたこと・今後の取り組み等)

ワークシート例 ②

考えたこと	追加調査	結果	調べ方	目的	疑問	題名
★結果から考えたことは、何ですか。 ★今後のこと、伝えたいことは何ですか。	★その結果はどうでしたか。 ★結果からさらに調べたいことは何ですか。	★調べた結果はどのようになりましたか。	★どのように調べましたか。	★調べようと思ったのはなぜですか。	★テーマから、自分がもった疑問は何ですか。	★調査報告文の題名は何ですか。
●結果「～に」「結果の「～から」」 ●はじめの「疑問」と関係が「～」についているように	●結果のまとめ ・表・グラフ・図 ・写真・資料引用	●かじよう書き ●最多最少に注目	●本・リーフレット・映像・アンケート・パンフレット・インタビュー	●理由「～から」	●自分の生活とのつながりから	●「疑問」「考えたこと」から

4 他教科等との関連

社会科における見学や調査したこと等について、また、理科における観察・実験の結果やその考察について報告する場合に、国語での学習を生かすことで、より確かな定着と向上が図れる。